

セイル・アムステルダム 2025 見学記

会員 福富 廉

10 年程前、オランダのアムステルダムで 5 年毎に大規模な帆船祭りが開催されていることを知り、2020 年夏に見に行く計画を立てていたが、コロナ禍で開催そのものが中止になった。そのコロナ禍もようやく沈静化し、今年 10 年ぶりに開催されることになって、見てくることができたが、それはそれは、ものすごい一大海洋イベントで、大いに満足して帰って来た。

ちなみに、わが国ではそれほど興味が惹かれないのか、書籍として記述があるのは、かの柳原良平氏の「オランダ帆船と北欧フェリーの旅」(1983 年刊の弥生叢書) くらいだろうか。今回は、日本からのツアーも半日だけ立ち寄るものを一度ネット上で見たくらいで、“世界の艦船”にも記事が出て無いように思うが、ヨット雑誌“舵”1 月号によく記事が出ていた。

1. セイル・アムステルダムの概要

セイル・アムステルダムと銘うったこのイベント、元は 1975 年にアムステルダム市制 700 年を記念して行われたイベントだったが、大好評となって 5 年毎に行われることになったようだ(柳原氏の記述から)。それから数えて、今年は 50 周年、コロナで前回中止になったので数えて 10 回目、しかも、今年はアムステルダム市制 750 年と言うことで、盛大に行われることになり、そして、8 月 20 日から 24 日までの 5 日間開催されることになった。日程は 1 年以上前に決まり、多くの帆船が集まるため、その周辺でも帆船のレースやここよりは規模は小さいものの帆船祭りのようなものがいくつか開かれるようだ。その一つにドイツの港町ブレーマーハーフェンでの帆船イベントがあり、5 年前はアムステルダムの後に開催される予定だったが、今年はアムステルダムの前に行われた。両港を結ぶ帆船に便乗できるツアー等もあり、5 年前はその申込をしていたが、今回はそこまではしなかった。

イベント自体は、例えば、よく行われていた長崎の帆船まつりのように、初日に帆走状態で入港していくセイルインと称される海上パレードがあり、中 3 日間は港に停泊して一般公開を行ったり各種イベントを行ったり、そして、最後は帆走状態で港を後にするセイルアウトのパレードで終わりになる。もちろん、音楽イベント等も多数開かれ、街全体を包み込む大イベントだった。



(図 1) セイル・アムステルダム 2025 関係地図

ちなみに、イベントの主役は、もちろん、トールシップと呼ばれる複数のマストと横桁・横帆を持った大型帆船であるが、それを取り巻く同様の形式の小型帆船、ヨーロッパでよく見られる、1本マストでちょっとファットで舷側にひれのようなものを持つ、いわゆるコグ船のような帆船、ガレオン船等のレプリカ船、20世紀前半に造られたと思われる蒸気船、それに軍艦や観覧船等々、それだけでもおびただしい数の所へ、数えられないほどの市民のヨット、モーターボート等々が錯綜していた。日本の「日本丸」「海王丸」はもちろん主役級の大型帆船だが、あえて言わせてもらえば、「みらいへ」クラスの帆船は何十隻もいて、数に入らない感があった。また、海上は日本の河川・海上では考えられないほど混雑した、ものすごい光景だったが、そこは伝統の海洋国のせいか、整然としたかなりの秩序が守られている感があった。

2. セイルイン・パレード

初めてこのイベントに参加するにあたって、初日の入港パレードを何とか海上で見たいと調べてきたが、その結果として、イベントの主催者が提供する観覧船を見つけた。それは、4か月ほど前のことであったが、少し遅かったようで、既に小型の帆船に乗るのは満杯で、申し込めるのは大型のパーティー船だけだったし、値段も目が飛び出るほど高かったが、他には代えられないので早速予約した。

乗船場所は市街から少し離れた広い埋立地の中の公共岸壁のような場所に臨時に設けられたセイル・ビレッジが指定されており、早朝にもかかわらず人が多くて、そこに行くシャトルバスに乗れないのではないかと思ったくらい混雑していた。当然、セイル・ビレッジの中も大混雑で、しかも、おびただしい数の観覧船が次から次へと着岸しては乗客を乗せて出港して行く。私の乗る「ブルーラプソディ」はおそらく一番最後の出港だった。

「ブルーラプソディ」は長さ85m、幅11.45m、収容人員600名の比較的新しいイベント船。船自体はリバー・クルーズ船とほぼ同じもので、昇降式のブリッジが備わっており、3層構造の2,3階のほとんどがラウンジ・スペースで、アルコールを含む全ての飲食がフリー、と言うものだったが、もちろん、飲食を楽しむほどることはできなかった。



朝のセイル・ビレッジ
次々と観覧船（帆船）が出港して行く



「ブルー・ラプソディ」
(下) 2階のダイニング、出港直後でここには人はいない



さて、「ブルーラプソディ」は9時頃解纜、北海運河に出るとおびただしい数のプレジャーボートが河口方向に向かっており、それに交じって下っていく。既に両岸の人が入れる場所には多くの人達が陣取つており、10時に河口のエイマイデンを出発するはずの帆船パレードを今か今かと待ち構えていた。

11時頃に河口のだいぶ手前の多くの中小帆船（観覧船）が居並ぶ場所で「ブルーラプソディ」も止まって待つことしばらくすると多くの船々がひしめく向うから大型帆船の姿が目に見えてきた。もうそれからは喧騒の中で、私も夢中で見ては、そして、写真を撮るのに忙しい。

先導するタグボートに続いて、先頭はアムステルダム市が持つ「シュタット・アムステルダム」、そう昨年5月、日本に来航した帆船だ（詳しくは、学会ニュース2024-75（0722）【オランダ帆走客船「スタッド・アムステルダム」紹介】；小池克己会員作成を参照）。それからは、次々に色々な船が来て、いちいち名前を確かめる間も無く、ただただ、喧騒が過ぎてゆく。

13時過ぎ頃になると、停泊していた観覧船が徐々にアムステルダム市街方向へ動き始め、当然、我が「ブルーラプソディ」もパレードの中に埋没して行進していく。途中、運河には何ヵ所か渡し船があるがパレード中は当然ながらほとんど運休のようだった。そして、「ブルーラプソディ」はセイル・ビレッジの前を過ぎて、一旦、帆船が集結・係留して各種のイベントが行われるアムステルダム中央駅の前まで行って、そこで反転してセイル・ビレッジに戻った。戻りながらも、色々な船が向かってくるので、どこが最後尾かもよくわからない程だった。



朝、帆船を迎えるプレジャーボート群



帆船パレードの先頭がやって来た

右から「シュタット・アムステルダム」、「シャバブ・オマーンII」、「ゴルヒ・フォック」、「タラッサ」、「J.R.トールキン」と続いてくる
左の青い帆船は観覧船「アトランティス」、ほぼ「みらいへ」と同じ大きさと帆装



右から、有名な「ゴルヒフォック」、キャラベル船「ペラクルス」、「タラッサ」、「J.R.トールン」、オランダ海軍のフリゲート「エヴァーツェン」と続く



さらに、右から、「ラフランセーズ」ポルトガル海軍の有名な「サグレス」、航洋タグ「シーウルフ」、「バウンティ」、「Stedemaeght」、等々と続々続く



さらに、色々なキャラック船、キャラベル船や帆船、古いタグボート等が続く。左の帆を張った帆船は「レジナ・マリス」

色々な船



パレード中はフェリーも休航「NZK PONT 104」



キャラベル船「ベラクルス」



ドイツの練習帆船「アレキサンダー・フォン・フンボルトII」



古風な遊覧船「プリンス・ファン・オランジェ」



オランダ海軍のフリゲート「エヴァーツエン」(F805)



大阪へ何度か来たポーランドの帆船「ダルモジエジー」



船尾外輪船「フリジアン・クイーン」



遊覧船「サクセス」



スペインのガレオン船のレプリカ「ガレオン・アンダルシア」



美しい姿で有名なノルウェーの「クリスチャン・ラディック」



こちらのフェリーも休航中「NZK PONT 103」(左)と「同 101」



運河沿いのダーメン・シップリペア
小型のフェリー等



後ろの方で登橋礼で進んで来たペルー海軍の「ユニオン」
2023年に東京に来航した



港に在泊していたシリヤラインの「ギャラクシー I」



パレード終点のアムステルダム中央駅裏付近 左写真は駅の対岸





パレードに交じって市街地方向を目指す「ブルーラブソディ」の船上から前後を見る



アムステルダム中央駅（左端）付近の喧騒、ボート群に取り囲まれた中を渡船が進む

3. アムステルダム市内のイベント

セイルイン・パレードが終わった船々はアムステルダム中央駅の東側、クルーズ・ターミナルもある内港エイハーヴェン周辺に係留されて、大型帆船を中心に一般公開が行われていた他、色々なイベントが行われていた。圧巻なのは、その中を反時計回りに周回するプレジャボート群で、この光景も言葉では表せない程すごいものだった。しかも、この時期は21時過ぎまで明るいので、遅くまで、また、暗くなつてからも人通りは絶えず、賑やかだった。後で知ったところでは、毎晩22時半頃に花火が打ち上げられていたそうだ。

ところで、アムステルダム中央駅付近には真裏の2航路他、6航路程の渡し船があるが、水面上の喧騒をよそに頻繁に運航しており、対岸の様子を見るためにも何度か乗ってみて、絶えずひやひやしたが、彼我共に整然と動いており、それにも感心した。

その他、音楽イベントや前述の花火等、3日間様々なイベントも予定されていたが、最後の5日目にセイルアウトとして北海運河を下つて北海に出て行くイベントで終了する。



(図3) 主な船の係留場所



アムステルダム中央駅付近からイベント会場を見る
右端がクルーズ・ターミナル



中世に活躍した帆船（おそらくレプリカ）が並ぶ
観覧船は海上を反時計回りに進む



オランダ海軍の潜水艦「ゼーレーウー」も参加
向う側は左から「ダルモジェジー」、「シャットト・アムステルダム」、「サグレス」、「シャバブ・オマーンII」
潜水艦の後方に何隻かの帆船が並んでいる。奥から「ヨーロッパ」、「アヴァンチュール」、右端が「ヨーロッパ」



港の奥には小型の帆船が多数並んでいた



港の奥の方から見た風景、一番奥が「ユニオン」



このようなボートも多数うろうろしていた





(左) ガレオン・andalusiaの巨大な船尾

ポーランドの
帆船「ダルモジエー」の
船上にあった
寄港地のイラスト
(上)

1983年と1997年の
大阪帆船祭りに両方参加し
ている。懐かしい。
(下)

SAIL アムステルダムには
5回目の参加
ブレーメルハーフェンの
帆船祭りにも同様

4. 今後のイベント

次回のこのイベントは 2030 年に開催される予定で、できることならばもう一度行きたい一大海洋イベントであるが、その前に、来年 2026 年はアメリカ合衆国建国 250 周年なので SAIL250 と称する一大海洋イベントが開催されることになっている。このイベントは、5 月 28 日のニュー・オーリンズから始まり、ノーフォーク、ボルチモア、ニューヨーク、と順に行われ、7 月 16 日にボストンで終了するが、何と言っても、7 月 4 日のニューヨークで行われる大イベントだろう。

前回の 1976 年の建国 200 周年に行われた “Operation1976” は雑誌 “世界の艦船” の 1976 年 12 月増刊号に詳しいが、帆船パレード(Operation Sail 1976)と国際観艦式を兼ねた大イベントで、日本からも帆船「日本丸」(横浜係留中の1世)と護衛艦「かとり」「ながつき」が参加した。また、それから、10 年後の 1986 年に行われた自由の女神 100 周年記念の国際観艦式と帆船パレード(これも、“世界の艦船”的 1986 年 11 月増刊号に詳しい)もほぼ似た形式ではあったが、こちらは日本の帆船は参加せず、護衛艦「かとり」「ながつき」だけが参加した。その後、西暦 2000 祭で現「海王丸」がニューヨークまで航海したが、現体制を鑑みると、節目の年として、それはすごいイベントになるのではないだろうか。おそらく、海上自衛隊の来年の遠洋航海部隊は参加するであろうが、「日本丸」「海王丸」が参加するかどうかが気になるところである。もちろん、参加するかしないか、もう決まって入るだろうが(どうも無さそうだが)。

また、建国 200 周年では、客船としては QE2 が巨大な星条旗を掲げて参加している写真も見えた。今回、「クイーン・メリーア」がニューヨークのイベントを最前列で見られるというたった広告を見た以外、その他はどうなるか情報は無いが、客船のイベントとしては、カーニバル・クルーズ・ラインが、東海岸の港から出航する 7 隻のクルーズ船がカリブ海のプライベート・アイランド、セレブレーションキー付近で、西海岸ではメキシコのエンセナダ近海で 3 隻のクルーズ船が、それぞれ同時に集まり、海上でユニークな祝賀イベントを開催することが発表されている。その他、ホランド・アメリカ・ラインの「ズイデルダム」がイベント期間中にニューヨークに寄港する等、いくつかの特別なクルーズがあるようだ。

HP から転載